

鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成24年度)

〔概 要 版〕

1. 運転事故

○平成24年度に発生した運転事故は、件数が811件で対前年度56件(6.5%)減、死亡者数が295人で同19人(6.1%)減でした。(表1参照)

○乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表 1 : 運転事故の件数及び死傷者数(平成24年度)

	件 数 (対前年度)	死亡者数 (対前年度)	負傷者数 (対前年度)
列 車 事 故※ ¹	22 件 (+ 9 件)	0 人 (± 0 人)	89 人 (+ 5 人)
踏 切 事 故※ ²	295 件 (△36 件)	121 人 (+ 2 人)	99 人 (+ 6 人)
うち踏切障害に伴う 列車事故※ ³	1 件 (△ 1 件)	0 人 (±0 人)	18 人 (+ 13 人)
道 路 障 害 事 故	62 件 (△28 件)	2 人 (+ 2 人)	21 人 (△23 人)
人 身 障 害 事 故	429 件 (△ 3 件)	172 人 (△23 人)	260 人 (+10 人)
うちホームでの 人身障害事故	223 件 (+14 件)	24 人 (△ 7 人)	199 人 (+ 20 人)
物 損 事 故	4 件 (+1 件)		
合 計	811 件 (△56 件)	295 人 (△19 人)	451 人 (△15 人)

※1 「列車事故」は、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。)及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

※2 「踏切事故」は、踏切障害に伴う列車事故と踏切障害事故の総称です。

※3 「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。合計の件数等は、この重複を除いたものです。

図1：運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成24年度)

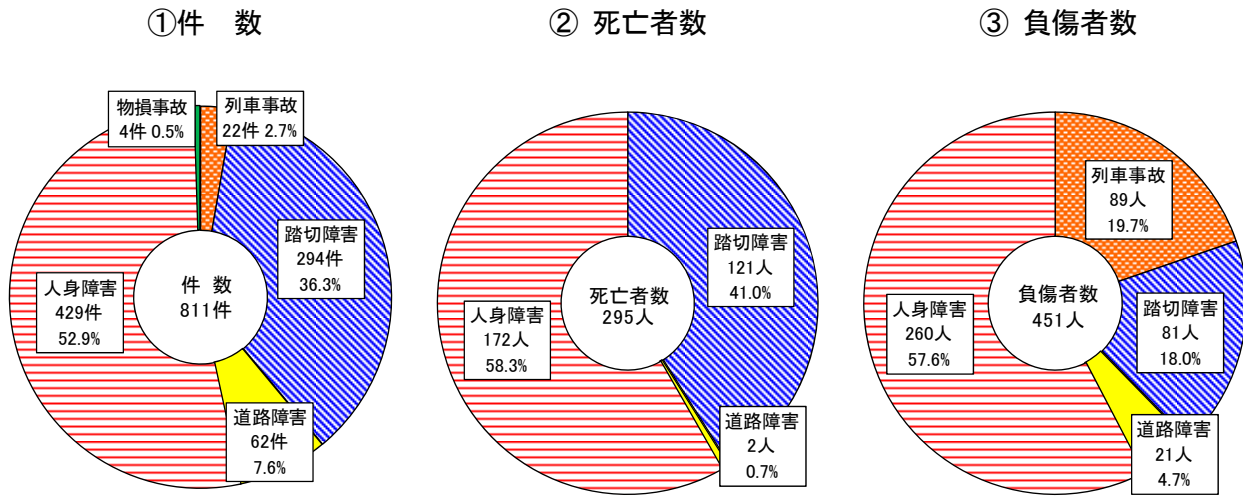
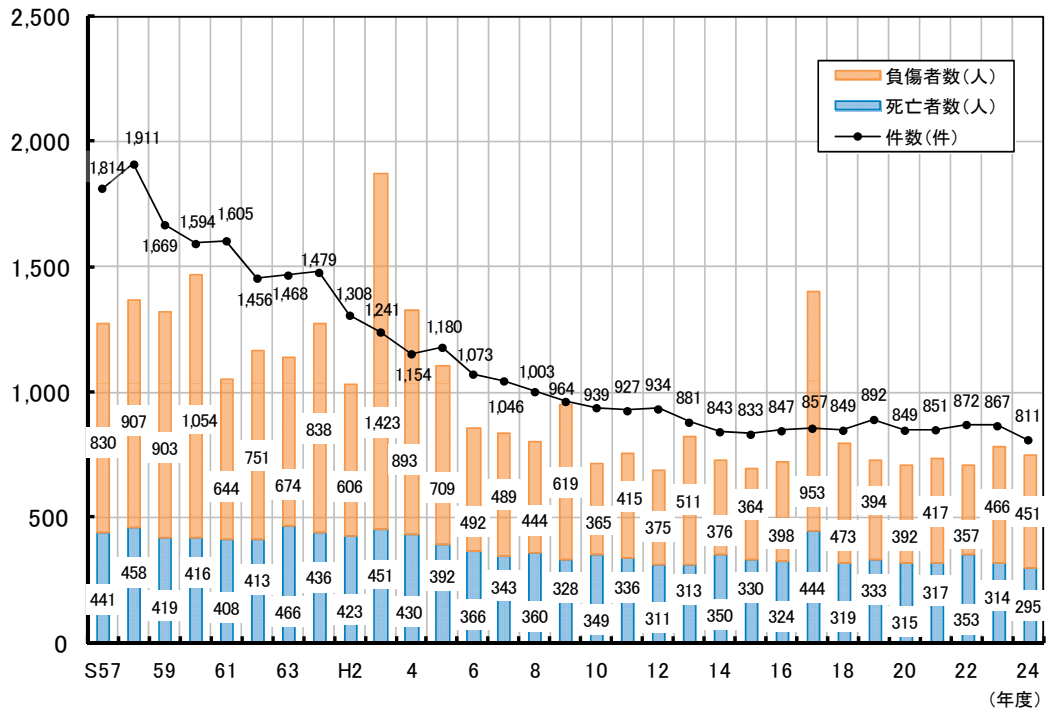


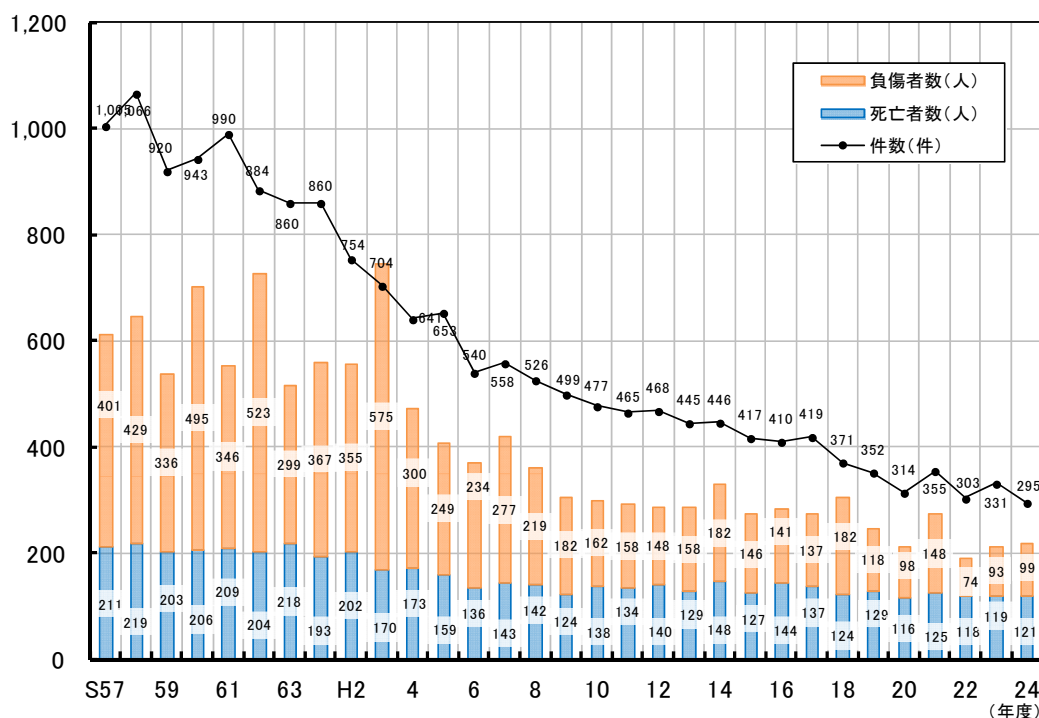
図2：運転事故の件数及び死傷者数の推移



2. 踏切事故

- 平成24年度に発生した踏切事故は、件数が295件で対前年度36件(10.9%)減、死者数が121人で同2人(1.7%)増でした。(表1参照)
- 踏切事故については、高齢者が関係するものが多く、平成22～24年度に発生した事故902件¹のうち448件(49.7%)を60歳以上の事故が占めています。また、衝撃物別である自動車だけをみても430件のうち210件(48.9%)を60歳以上の方が占めています。(図4参照)
- 高齢者の関係する事故に関しては、例えば、平成22～24年度に発生した運転者が60歳以上の自動車の第1種踏切道における踏切事故156件のうち、停滞²によるものが73件(46.8%)を占めるなど、特徴があります。
- このような特徴を踏まえ、踏切支障報知装置の整備等を推進する他、自動車が踏切道から出る前に遮断機が閉じたときにはそのまま進行し遮断機を自動車で押し上げて脱出できることの周知を図るなど、今後も事故防止を図っていきます。

図3:踏切事故の件数及び死傷者数の推移

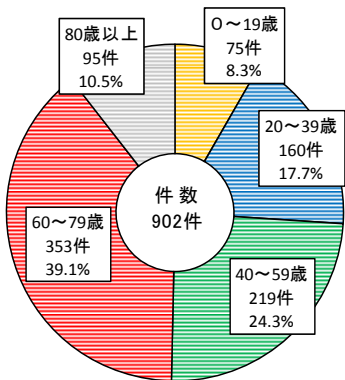


¹ 平成22年度303件、平成23年度331件及び平成24年度295件の計929件から、関係者の年齢を把握できなかった27件を除いた件数。

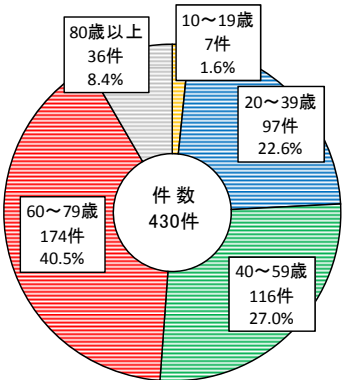
² 第1種踏切道における自動車の「停滞」による踏切事故とは、踏切道から出る前に遮断機が閉じた、前方の道路が渋滞していたなどにより、自動車が踏切道内に停滞していたことによる事故のことです。

図4 踏切事故の発生状況

①関係者年齢別の踏切事故件数

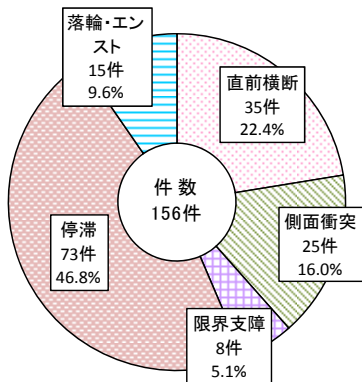


② 関係者年齢別の踏切事故件数（自動車）

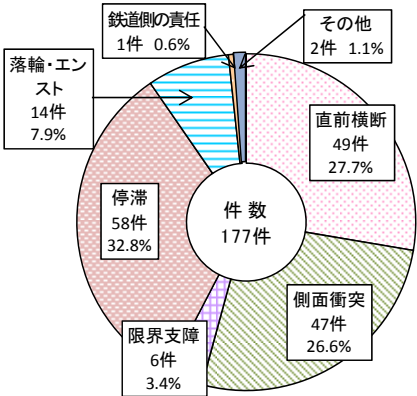


③ 第1種踏切道における自動車の踏切事故の原因別件数

（運転者が60歳以上）



（運転者が60歳未満）



3. 人身障害事故

- 平成24年度に発生した人身障害事故は、件数が429件で対前年度3件(0.7%)減、死亡者数が172人で同23人(11.8%)減でした。(表1参照)
- 線路内への無断立入り等での接触による人身障害事故は、件数が193件で対前年度14件(6.8%)減、死亡者が145人で同17人(10.5%)減となっています。
- 「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」による人身障害事故は、件数が223件で対前年度14件(6.7%)増、死亡者数が24人で同7人(22.6%)減でした。このうち、酔客に係るものは137件(61.4%)で同15件(12.3%)増でした。(図6・7参照)
- ホームの安全対策としてホームドア等の整備や、「プラットホーム事故ゼロ運動」等により、今後も事故防止を図っていきます。

図5: 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移

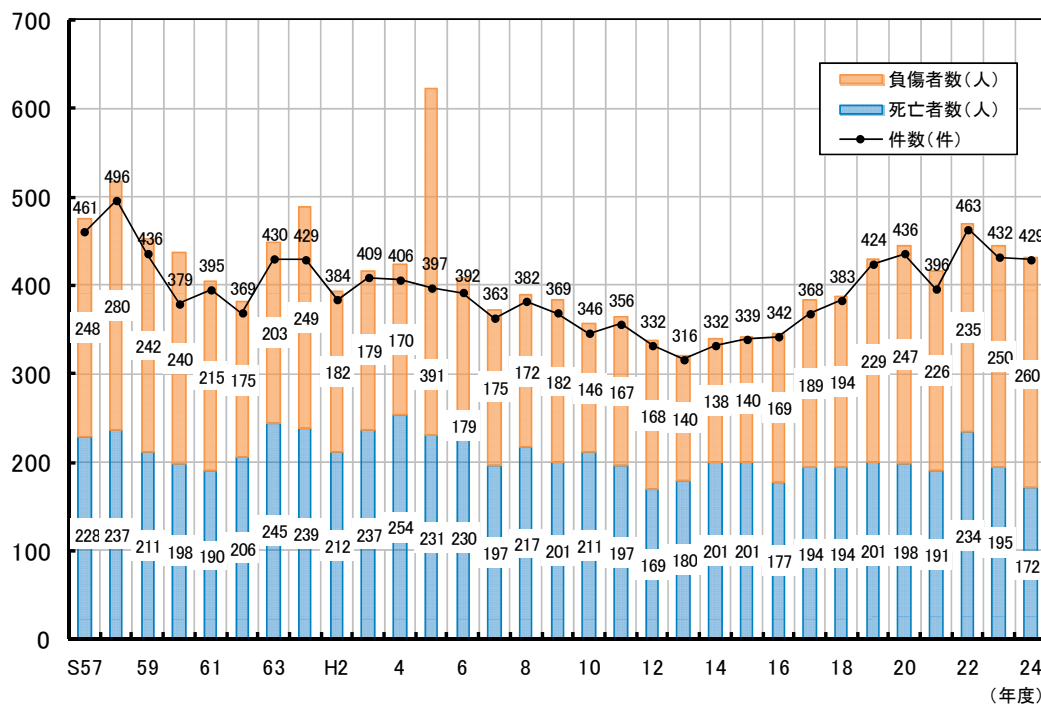
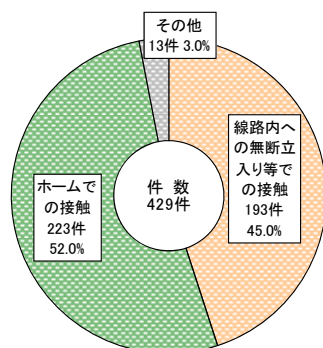
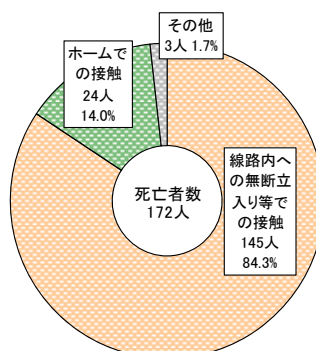


図6：人身障害事故の原因等別の件数及び死傷者数(平成24年度)

① 件 数



② 死亡者数



③ 負傷者数

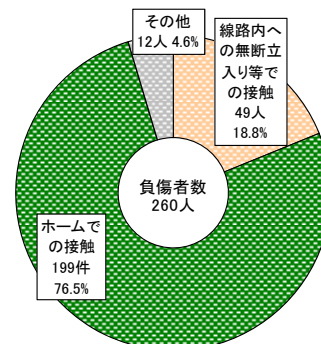
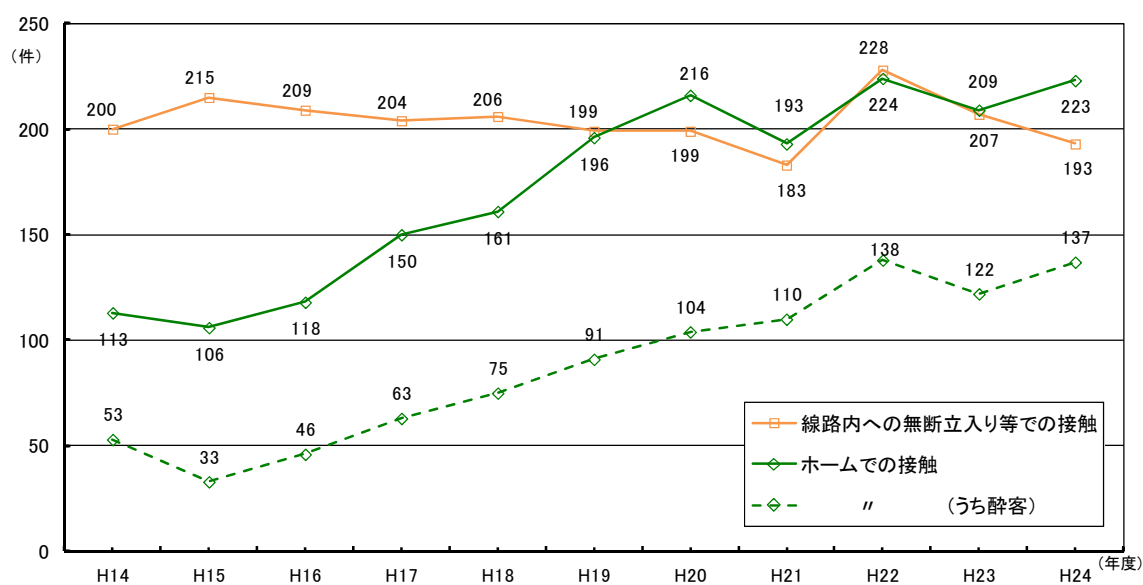


図7：ホーム等における人身障害事故件数の推移



4. 輸送障害

- 平成24年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は5,883件で対前年度603件(11.4%)増でした。(図8参照)
- 鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因する輸送障害(部内原因)は、1,638件(27.8%)で対前年度120件(7.9%)増でした。このうち、鉄道係員に起因するものが263件で同7件(2.6%)減、車両に起因するものが917件で同36件(4.1%)増、施設に起因するものが458件で同91件(24.8%)増でした。
- 線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,231件(37.9%)で対前年度380件(20.5%)増でした。このうち、自殺によるものは、631件で同30件(5.0%)増、動物によるものは514件で同202件(64.7%)増でした。
- 風水害、雪害や地震などの自然災害による輸送障害(自然災害)は、2,014件(34.2%)で対前年度103件(5.4%)増でした。なかでも、水害によるものが528件で同43件(7.5%)減、雪害によるものが304件で同57件(15.8%)減、風害が560件で同222件(65.7%)増、地震によるものが62件で同102件(62.2%)減でした。

図8：輸送障害件数の推移

